

小学5・6年生におすすめの本

姫路市立城内図書館

あらしの前

ドラ・ド・ヨング作 岩波書店 GYーヨ

第二次世界大戦時のオランダ。村の開業医オルト家には6人の子どもがいました。この家には、ドイツからのがれてきたユダヤ人の少年もいっしょに仲良くしていました。しかし、この平和な村にもドイツ軍の侵入が始まり、一家は激しい戦争の嵐に巻き込まれていきます。続編に、『あらしのあと』があります。

エーミールと探偵たち

エーリヒ・ケストナー作 岩波書店 GYーケ

エーミールは、ベルリンのおばさんをたずねる列車の中で、大切なお金を山高帽の男にとられてしまいます。犯人を自分でつかまえることにしたエーミールは、街で出会った少年らとともに、男の後を追いかけます。みんなの協力を得ながら、しだいに男を追いつめていきます。

風によってきたメアリー・ポピンズ

P.L.トラヴァース作 岩波書店 GYート

ロンドンの桜町通りにあるバンクス家には4人の子どもたちがいました。ある東風の強い日、子どもたちの新しいせわ役にメアリー・ポピンズがやってきました。その人は、おどろいたことに、2階の子ども部屋まで階段の手すりに腰かけたまま、すべり上がってきました。それ以来、桜町通りでは、不思議で楽しい出来事が次々と起こります。

ギリシア神話

石井桃子編・訳 のら書店 GYーギ

古代ギリシアの人々が伝えた物語です。神々の父ゼウスと妻のヘラ、太陽の神アポロン、農業の女神デメテルといった神々や、へびの髪を持つメドゥサを退治したペルセウス、12の冒険にいどんだヘラクレスなどの英雄たちが活躍します。また、「トロイア戦争」と「オデュッセウス」の話もおさめられています。

クマのプーさん プー横丁にたった家

A・A・ミルン作 岩波書店 GYーミ

食いしんぼうでおひとよしのクマのプーは、ハチミツが大好物。ある日、ウサギの家で山ほどごちそうになった後、外に出ようとしたプーは、穴につまってしまいました。そこで、外に出たプーの体の前半分には友だちのクリストファー・ロビンが本を読んでやり、後ろ足にはウサギがタオルを干しました。このほかにも、プーやその友だちが登場する19篇のお話がおさめられています。

黒ねこの王子カーボネル

バーバラ・スレイ作 岩波書店 GYース

ロージーは、お掃除のアルバイトをするため、市場へほうきを買いにいきました。そこで変なおばあさんから、ほうきと黒ねこを買ったのですが、とつぜん黒ねこに話かけられびっくりします。実は黒ねこは、魔女に魔法をかけられ、しもべにされてしまった、ねこの国の王子だということです。ロージーは魔法をといて、王子カーボネルを自由の身にしてあげることになります。

元気なモファットきょうだい

エレナー・エステイス作 岩波書店 GYーエ

モファット家のきょうだいは、ママといっしょにニューダラー通りの黄色い家で楽しくらしていました。きょうだいは、いじめっ子に“お礼”をするために、幽霊をつくり、子どもだけで荷馬車を走らせたりと、毎日元気にすごしています。ただ、気がかりなのは、家の正面にはられた「売り家」のはり札でした。

この湖にボート禁止

ジェフリー・トリーズ作 福音館書店 GYート

ビルたち一家は、母さんが遺産でもらった山荘に引っ越してきました。近くには湖があり、そこにはビルたち家族のものになったボートまであります！けれど地主のアルフレッド卿は、なぜか「この湖にボートは禁止だ」と言うのです。アルフレッド卿には、何か秘密があるにちがいありません。ビルは仲間たちとその秘密をさぐりだすことにしました。

ジャングル・ブック

R・キップリング作 福音館書店 GYーキ

密林の首領オオカミの洞穴に、裸の人間の赤んぼうが歩いてきて、他の子オオカミたちに混じっておっぱいを吸い始めました。オオカミ夫婦はこの赤んぼうを守り育てます。やがて赤んぼうは、賢く勇気ある少年モーグリに成長し、動物たちのきびしい生存競争の中で、野生の生命力とジャングルの掟と知恵を身につけて、密林の首領となり森を守っていきます。

大草原の小さな家

ローラ・インガルス・ワイルダー作 福音館書店 GYーワ

6才の女の子ローラは、とうさん、かあさん、姉さんのメアレイ、妹のキャリー、犬のジャックといっしょに、家の中のものを何もかも馬車に積みこんで、大きな森の小さな家から、新しい土地を求めて出発します。たどり着いた大草原に、家族が力をあわせて丸太で家を建て、土地を耕し、何もかもが手作りの新しい暮らしを始めます。

宝島

R・スチーブンソン作 童心社 GYース

少年ジムの宿屋に、海賊あがりのお水夫が泊まりにやってきました。彼の死後、残された荷物の中に宝島の地図を見つけたジムは、郷士さん、医者、のりば先生と宝島をさがす航海に出ます。けれども、雇い入れた片足の料理番、のっぽのシルバーは海賊で、ジムたちがさがしている宝をねらっていたのです。

たのしい川べ

ケネス・グレーアム作 岩波書店 GYーグ

地下の穴に住むモグラは、ある時、春のおとずれにじっとしていらなくなり、地面の上へと飛び出しました。地上に出たモグラは、静かな川べに住む川ネズミの家で暮らし始めました。モグラは、川ネズミとピクニックを楽しんだり、わがままなヒキガエルの家をたずねたり、恐ろしい冬の森でまいごになります。

小さい牛追い

マリー・ハムズン作 岩波書店 GYーハ

ラングリュード農場の4人の子どもたちは、毎年春から夏まで、両親といっしょに山の上の農場でくらしします。そこでたくさんの牛や羊に新鮮な青草を食べさせるのです。上の2人の男の子、10歳のオーラと8歳のエイナールは、今年初めて自分たちだけで牛追いの仕事をまかされることになりました。

ツバメ号とアマゾン号

アーサー・ランサム作 岩波書店 GYーラ

夏休みに湖にやってきたウォーカー家の4人きょうだいは、ツバメ号という小さな帆船^{はんせん}をあやつって湖を探検し、湖の島で子どもだけのキャンプを始めました。そこへアマゾン海賊^{かいぞく}を名のる2人の女の子が帆船アマゾン号に乗って現^{あらわ}れました。子どもたちは、おたがいの船の分捕り^{ぶんぷり}合戦^{がっせん}をすることにします。

寺町三丁目十一番地

渡辺茂男作 福音館書店 Yーワ

寺町三丁目の福地写真館^{ふくち}は、大人が4人子どもが9人の大家族です。ある夜、福地写真館^おに押し入ったどろぼうは、家族の寝間^{ねま}で腰^{こし}を抜かしてしまいます(「どろぼうさわぎ」)。海水浴^{かいすい}に行つてはどこの臨海^{りんかい}学校かと聞かれます(「海水浴」)。昭和10年代の大家族の雰囲気^{ふんいき}があたたかくユーモラスに描^{えが}かれています。

点子ちゃんとアントン

エーリヒ・ケストナー作 岩波書店 GYーケ

点子ちゃんはお芝居^{とくい}が得意なお金持ちの女の子。お父さんとお母さんは忙しくてあまりかまってくれません。アントンは料理が上手でよくお手伝いをする男の子。お母さんは病気で働^{はたら}けません。アントンはお金をかせぐため、点子ちゃんと、夜に橋の上でくつひもを売っています。困^{こま}ったことがあっても、2人で力を合^{かいけつ}わせて、解決していきます。

とぶ船

ヒルダ・ルイス作 岩波書店 GYール

ピーターが買った小さな船は、魔法^{まほう}の船でした。ポケットから出すと手の上で大きくなりはじめ、ピーターを乗せて空を飛んだのです。ピーターたち4人のきょうだいは、この船でエジプトなど遠くへ旅するばかりか、北歐^{ほくおう}神話の世界まで時間旅行をするようになります。きょうだいは、歴史のまっただなかに降り立ち、冒険^{ぼうけん}を続けます。

トム・ソーヤーの冒険

マーク・トウェイン作 岩波書店 GYート

トムは家の手伝いや学校をしょっちゅうさぼるわんぱくな少年です。ハックやジョーたちと家出^{かいぞく}をして海賊^{かいぞく}になろうとしたり、墓地^{ぼち}で殺人現場^{さつじんげんば}を目撃^{もくげき}したり、洞窟^{どうくつ}で道^{まじ}に迷^めい行方^{ゆくえ}不明^{ふめい}になりかけたりと、いつもとてつもないことをして、まわりの人たちをハラハラさせます。

トムは真夜中の庭で

フィリパ・ピアス作 岩波書店 GYーピ

夏休み、トムは、おばさん夫婦^{ふうふ}の住む古いアパートに預^{あず}けられ、退屈^{たいくつ}しきっていました。ところがある真夜中、眠れずにいたトムは、ホールにある古い柱時計^{とま}が13回時^{とき}を打つのを聞きます。トムがホールにおいて裏庭^{うらにわ}のドアを開けると、そこには存在^{そんざい}しないはずの美しい庭園^{てんえん}が広がっていました。

長い長いお医者さんの話

カレル・チャペック作 岩波書店 GYーチ

よくも悪くもない魔法^{まほう}つかいのマジヤーシュが、ウメの種をのどにつまらせてしまいました。かけつけたお医者さんたちは、魔法つかいをからかってやろうと考えて、長い長い話をはじめます。このほかにも、郵便局^{ゆうびんきょく}の妖精^{ようせい}とはたらき者の郵便屋^{ゆうびんや}さんが活躍^{かつやく}する話など、9篇^{へん}のお話がおさめられています。

西風のくれた鍵

アリソン・アトリー作 岩波書店 GYーア

小さいジョンは、西風に木の実の鍵をもらいました。その鍵は、木の幹にある戸棚の鍵でした。ジョンは戸棚の中のものを見て、木の秘密を知ります。このほか、動物の言葉のわかるピクシーのスカーフを拾った男の子の話や、妖精の花嫁になった少女の話など、6篇のお話がおさめられています。

人形の家

ルーマー・ゴッデン作 岩波書店 GYーゴ

ある子ども部屋に、小さな人形たちが住んでいました。人形たちは、くつ箱にごたごととつめこまれながらも、幸せに暮らしていました。ある日、子ども部屋に古い人形の家が送られてきました。人形たちは大喜びしますが、まもなくマーチペーンという花嫁人形もやってきました。マーチペーンは、値うち物ですが、美しさを鼻にかけたいやな人形でした。

ノンちゃん雲に乗る

石井桃子作 福音館書店 Yーイ

ノンちゃんは8つになる女の子。ある朝起きてみるとお母さんがいません。お兄ちゃんと東京に出かけたことを知ったノンちゃんは泣き出してしまいます。泣きつかれてお宮の木に登ったノンちゃんは池におち、水底の空に浮かぶ雲の上に助け上げられます。そこには雲のおじさんがいて、ノンちゃんは家のことや家族のことを次々とものがたります。

ハイジ

J・シュピーリ作 福音館書店 GYース

母を亡くした少女ハイジは、人里を離れてアルプスの山に住むおじいさんにあずけられました。無邪気なハイジは頑固なおじいさんの心を解き、やぎ飼いやペーターとも仲良くなりました。やがてハイジは都会で病身のおじょうさんクララの相手をするようになります。ハイジは行く先々で人々の心をなごませ、ハイジと出会った人々に、生きる喜びを与えるのでした。

ハヤ号セイ川をいく

フィリパ=ピアス作 講談社 GYーピ

夏休みのある日、デビッドは庭先のセイ川でカヌーを見つけ、持ち主のアダムと友達になりました。ところがアダムの家はくらしに困っていて、このままでは屋敷を手放さなければならないというのです。そこで2人はカヌーを修理し、ハヤ号と名付け、アダムの家に伝えられている一篇の詩を手がかりに、かくされた宝をさがし出そうとします。

火の鳥と魔法のじゅうたん

E. ネズビット作 岩波書店 GYーネ

ロンドンに住むシリル、ロバート、アンシア、ジェインのきょうだいは、魔法のじゅうたんを手に入れます。じゅうたんの中から出てきた卵からは不死鳥が生まれました。きょうだいは、不死鳥といっしょに魔法のじゅうたんに乗って、南の島へ行ったり、宝物を見つけに行ったりと大冒険をしますが、いつも大変な騒動になってしまいます。

秘密の花園

F・H・バーネット作 福音館書店 GYーバ

メリーはインドで両親の愛情を知らずに育ったため、つむじまがりでかわいげのない子どもでした。伯父さんに引き取られて、ヨークシャーの自然の中で、素朴な人々にふれてくらすうちに、メリーは少しずつ子どもらしさをとりもどしていきます。ある日メリーは、10年間閉ざされたままの「庭」の鍵を見つけ、大人たちには内緒で、枯れた「庭」を生き返らせようとしています。

ふしぎの国のアリス

ルイス・キャロル作 福音館書店 GYーキ

アリスがチョコッキを着たウサギを追って穴に飛び込むと、そこから不思議な世界への冒険が始まりました。からだが大きくなったり小さくなったり、自分の涙でできた海でおぼれそうになったり。アリスはこの不思議の国で、神出鬼没のチェシャ・ネコ、なぞなぞをふっかける帽子屋、冷こくなハートの女王など、奇妙な住人たちと出会います。

冒険者たち

斎藤惇夫作 岩波書店 Yーサ

町ネズミのガンバは、イタチの一族に襲われた島ネズミたちを助けるため、15ひきの仲間とともに夢見が島に渡りました。ところが、ノロイ率いるどうもうなイタチの群れに、しだいに追いつめられていきます。ガンバたちは、知恵と力の限りをつくし、イタチたちに立ち向かいます。

ぼくとくらししたフクロウたち

ファーレイ・モワット作 評論社 GYーモ

生き物が大好きな少年ピリーは、念願のフクロウのヒナを手に入れます。勇ましい「クフロ」と泣き虫の「メソ」。「クフロ」は、大好きなピリーの学校に飛んできて授業を台無しにしたり、牧師さんの肩に突然まいおりて死ぬほど驚かせたりと、思いもかけない出来事を引き起こします。自分を人間だと思い込んでいるフクロウたちとくらしした少年の3年間の物語。

魔法使いのチョコレート・ケーキ

マーガレット・マーヒー作 福音館書店 GYーマ

魔法の腕はよくないけれど、チョコレート・ケーキを作るのは得意な魔法使いが、パーティを開いて町中の子どもを招待しました。でも、子どもはひとりもやってくるませんでした。魔法使いは仕方なく、りんごの木を相手にお茶を飲み、戸口のまわりにたくさんの木を植え始めました。年月がたち、やがてそこは森となります。このほか、10篇のお話と詩がおさめられています。

まぼろしの子どもたち

ボストン作 偕成社 GYーボ

トリー少年は冬休みに田舎の大おばあさまの館で過ごすことになります。大雨で水浸しの夜、トリーは館に到着します。何百年もたった石造りのその館には、親しみ深い不思議な気配が漂っていました。それは肖像画に描かれた昔の子どもたちの気配でした。

ムーミン谷の彗星

トーベ・ヤンソン作 講談社 GYーヤ

ムーミン谷は、木が青々と茂り、野原に小川が流れ、ムーミンやしきがあるとともきれいなところです。この谷では、小さな生き物たちが幸せにくらしていました。ところがある日、じゃこうねずみが「もうすぐ地球がほろびる」と言い出します。彗星が近づいてきていたのです。そこでムーミンとロールとスニフは、おさびし山まで、彗星を観測しに行くことになりました。

ムギと王さま

ファージョン作 岩波書店 GYーフ

ウィリーは天才児でした。ところが、10歳になると、そのすばらしい頭が、全然是たらなくなってしまう。ほとんど口もききませんが、いったんゆるむと、とめどもなく話し続けました。ある日、「ぼくが、エジプトにいて小さかったころ、お父さんのムギ畑に王さまがきた」話を始めました。このほかに、26篇のお話がおさめられています。

床下の小人たち

メアリー・ノートン作 岩波書店 GYーノ

イギリスの古い家の床下ゆかしたに小人の一家が住んでいました。小人たちは、必要な物はこっそり人間のところから借り、マッチ箱でたんすを作ったり、ほうせきばこ宝石箱を長いすにしたりしてくらしていました。ところがある日、小人の女の子アリエッティが、人間の男の子に見つかってしまいました。アリエッティと仲良くなった男の子は、小人たちのために、人形ひつようの家の家具を運んできてくれるようになります。